

令和元年7月31日

会員各位

協会だより—0008(8月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)
触媒資源化協会

2・【トピックス】:

- 一般社団法人 「触媒工業協会」の幹部との懇親会の実施
日 時：8月1日(木) 午後18:00より
場 所：JX金属(株)六本木クラブ
参 加：14名
- 第241回月例会(触媒工業協会共催講演・懇親会)参加者募集中
日 程：9月9日(月) 16:00-19:00 如水会館 富士の間
演 題：「脱炭素社会に向けた国際エネルギー状況と展望」(仮題)
講 師：田中伸男氏(笹川平和財団会長、元IEA事務局長)
申込締切：8月23日(木)



- 一. 協会よりのお知らせ
- 二. 「トピックス」
- 三. 「実施済事項」
- 四. 「見学会後記」第240回月例会・見学会
- 五. 「予定事項」
- 六. 事務局より(8月度の予定)

3. 【実施済事項】

- ① 協会だより0007（7月号）をHPに更新・各会員並びにOB各位に通知
- ② 令和元年度版の会員名簿正・賛助会員会社より更新情報の確認
- ③ 第240回月例会・JFEスチール千葉地区の見学
- ④ 【会員専用HPの更新】
 - 7月度の経費明細
 - 第240回月例会・見学写真&懇親会写真をPDFで公開
- ⑤ 第242回月例会一泊研修会の参加者&コース選択のアンケート実施

4. 第240回月例会（JFEスチール（株）東日本製鉄所（千葉地区）

見学会）見学会後記

川研ファインケミカル(株) 小川芳規

2019年7月10日、第240回月例会の工場見学会に参加した。今回の訪問先は、JFEスチール（株）東日本製鉄所の千葉地区で、京葉工業地域の真ん中に位置する都心に非常に近い製鉄所です。参加者は総勢36名。JR蘇我駅西口に集合し、そこからJFEスチールまで見学用に手配した貸切りバスで移動した。まずは、見学センターでの工場説明。説明会場は広く、常時、地域の小学生や修学旅行生、シニアの団体や海外からの視察団などの見学を受け入れているとのことであった。

東日本製鉄所の千葉地区は、戦後わが国で初めて建設された銑鋼一貫の臨海製鉄所であり、敷地面積約765万m²で東京ディズニーランドのおよそ10倍という広大な敷地を有している。千葉地区の年間の粗鋼生産量は、年間約400万トンで横浜地区とほぼ同じ。福山、倉敷の西日本製鉄所を含めたJFEスチール全体の粗鋼生産量は、年間約2,000万トンで国内第1位。世界でも第8位の生産量を誇るとのこと。千葉地区では、最新の技術と徹底した省エネルギー化で、自動車や電化製品、飲料缶などに用いられる薄板を世界トップクラスの品質と生産性で提供しているとのことであった。

見学センターでの説明の後は、いよいよバスに乗車して工場見学へと向かう。製鉄は大きく分けて、製鉄～製鋼～ casting～圧延の工程に分けることができるが、まずはバスに乗車したまま製鉄工程を見学した。原料となる鉄鉱石、石灰、石炭の山と、原料供給のための長く続くベルトコンベアの坂道を横目でみながら溶鉱炉へと到着。残念ながら製造された銑鉄の出湯現場を見ることはできなかったが、巨大な溶鉱炉のスケール感には圧倒された。

次いで、バスを降りて製鋼の工程を見学。製鋼工場の外階段を上り、最上階へ。こちらでは、銑鉄に含まれる炭素分等の不純物を燃やして強くしなやかな鋼に変える転炉を見学した。当日は今の季節にしては比較的気温が低い日ではあったが、それでも作業場の中は暑い熱気にさらされており、転炉の前のモニターで監視をされる作業員の方々の大変さを感じられた。続いて、転炉で作られた溶けた鋼を冷やして厚い板状の「スラブ」にする連続鑄造工程へ。階段を下りながら、転炉から排出された真っ赤な鋼が徐々に長方形の細長い帯に引き伸ばされる過程を見学。最終の切断工程では、常に押し出されてくる鋼のスピードに合わせてバーナーを移動させて切断する必要があるとのことで、バーナーの真っ赤な炎の迫力もさることながら、最新のコンピューター技術があつての精密な作業であると感じた。

次に、スラブを圧延機で伸ばして鋼板に変える熱間圧延工程を見学。こちらは、世界初の「エンドレス・ホットストリップ圧延技術」を導入しているとのことで、全長数百mにも及ぶ長い工場内の直線を、先程の切断されたスラグが流れるように移動しながら、指定された暑さ0.8mm～25mmまでに均一に引き伸ばされる過程を見学した。灼熱のスラグがものすごい勢いで流れながら引き伸ばされ、冷却水が盛大な音とともに蒸発して蒸気を発する様は、さながらライド式の屋内アトラクションにいるような感覚であり、しばらく眺めていても飽きない興味深さがあった。最後に均一に引き伸ばされた薄板が、瞬時に巻き取られてロール状となる過程を見学してツアーは終了した。こちらのロールはそのまま製品として出荷、もしくは次の冷間圧延でさらに厚さ0.1mmまで引き伸ばされ又亜鉛や錫メッキの表面処理工程に流れるとのことであった。

見学ツアー終了後見学センターに戻りJFEスチール製品でできた缶の飲料を頂きながら質疑応答を実施。暑い工場内を歩いた体に水分がおいしく染み渡るとともに、千葉地区ご自慢の「エンドレス・ホットストリップ圧延技術」の革新性を改めて実感した。

最後になりますが、豊富な知識と熱いご説明でご対応頂いた説明員の山口様と、今回の貴重な見学会の機会を下さった、当協会の皆様に御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

5. 【予定事項】

- ① 会員会社の内容更新と会員専用HPへPDF公開
- ② 協会だより0009（9月号）の発行
- ③ 触媒工業協会との幹部交流会の実施（8月1日）
- ④ 第241回月例会・共催講演会への出席者募集締切
- ⑤ 第242回月例会の案内送信

触媒工業協会と触媒資源化協会との幹部交流会の出席予定者

【触媒工業協会】

会長 一瀬宏樹（㈱キャタラー 代表取締役副社長）
 副会長 吉田次郎（日揮触媒化成株式会社 取締役）
 副会長 遠藤 晋（エヌ・イー ケムキャット㈱ 代表取締役専務取締役）
 監事 渡邊眞一（太陽鋳工㈱ 東京支店支店長）
 運営委員長 水澤浩二（日揮触媒化成㈱ 営業本部営業企画グループ主席）
 技術委員長 小川芳規（川研ファインケミカル㈱ ファイン事業部営業開発部 SC 営業グループリーダー）
 事務局長 伊藤宏行（(一社)触媒工業協会 事務局長）

【触媒資源化協会】

会長 安田 豊（JX金属㈱ 執行役員 環境リサイクル事業部長）
 副会長 林 光蔵（田中貴金属工業株式会社 理事 化学品カンパニー）
 副会長 永井俊一（ミヤマ株式会社 営業本部本部長）
 理事
 広報委員長 尾沼 涼（ジョンソン・マッセイ合同 資源技術開発部門ダイレクター）
 運営委員長 渡辺敏樹（堺化学工業㈱営業本部・機能材営業部長）
 技術委員長 小松 晃（エヌ・イーケムキャット㈱化学触媒営業部主任）
 専務理事 角田英夫

6. 事務局（8月度の出勤予定）

出勤予定●：8日間

日	月	火	水	木	金	土
	7/29	7/30	7/31	8/01	8/02	8/03
			●	●		
8/04	8/05	8/06	8/07	8/08	8/09	8/10
		●			●	
8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17
		●				
8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24
		●		●		
8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31
		●			●	

（文責：専務理事）